

2020 年度 帰国隊員/青年支援プロジェクト 実施報告書 提出日 2022 年 6 月 7 日		
氏名: 中束 愛		実施国: スーダン
協力活動・調査研究		
活動名称	スーダン公立学校での初等中等音楽教育の確立と普及を目指すプロジェクト	
実施期間	2021 年 10 月～2022 年 5 月	
(1) 申請した動機		
2019 年スーダン革命後、国の再建、平和構築を目指し、スーダン唯一の音楽大学、The College of Music and Drama, Sudan University of Science and Technology の学生自治会長より、初等中等音楽教育の確立と普及を目指すプロジェクトの立ち上げを手伝ってほしいと 2020 年 1 月に直接要請を受けた。これは、音楽教育を通して、児童生徒の心身の発達、成長を促すことはもちろんのこと、多民族間の調和、民主化の確立、平和構築、社会システムの変化も視野に入れたプロジェクトである。 スーダン国内の公立学校での初等中等音楽教育の確立と普及、及び The College of Music and Drama における音楽教育者養成プログラムの確立を最終的な目標とする。30 年間続いた独裁政権下で音楽教育はもとより、表現の自由も保障されていなかったスーダンで、今回の革命を機に、音楽教育の確立と普及を目指そうと、学生たちは強い責任感と熱意を持っている。また、すでに教育省も音楽教育の取り入れに前向きな姿勢を示している。 本プロジェクトでは、現役音楽教育者、音大生に向けたワークショップ及びトレーニング、公立学校での音楽教育及び音楽教育の効果に関するデータ収集、政府機関との連携体制の確立に向けたミーティング、The College of Music and Drama での音楽教育者養成プログラム確立のためのカリキュラム作成、楽器調達、教科書の選定、及び作成を目指す。 また、多くの犠牲者を出したスーダン革命、特にハルツームでの虐殺を目撃している学生、講師へのメンタルサポートも行う。そのほか、音楽が世界各国で平和構築に貢献してきた事例、音楽がもたらす脳への変化、及び学力、注意力、チームワークをはじめとする社会的スキルの向上といった研究結果も The College of Music and Drama や教育省と共有することにより、音楽教育の意義、効果、有用性について理解を促す。		
(2) 活動内容概要		

■ プロジェクトに関する資料作成

プロジェクトリーダーと度重なるミーティングを行い、プロジェクトのねらい、短期、長期目標、スケジュール等を含む同プロジェクトに関する資料を作成した。

■ プロジェクトメンバー選出及び協力要請

現役音楽教育者の一部、及び大学教授や講師とミーティングを行い、協力を要請するとともに、プロジェクトメンバーを選出した。

■ British Council にてプレゼンテーション

協力要請のため、British Council にて同プロジェクトに関するプレゼンテーションを関係者向けに行った。

■ 音楽教育者向けの2週間のトレーニングプログラムを計画、準備、及び実行

スケジュール及びカリキュラム作成、楽器を含む物資調達、ポスター作成、参加者との連絡調整、実施場所の確保と連絡調整、教材準備、動画作成及び配信、修了証の作成及び授与 Facebook ページや YOUTUBE チャンネルの作成、ロゴ作成、JICA ロゴ使用要請、対面コースの実施、修了確認テストの作成及び実施等を行った。

■ 参加者からのフィードバックを収集

参加者へのアンケートを作成し、トレーニングプログラム最終日にアンケートを記入してもらい、回収した。

■ 教育現場からのフィードバック、認知領域に関するテストの実施協力要請

参加者の中から優秀な 4 名の音楽教師を選抜し、音楽教育を受けている児童の認知領域に関するテスト(Trail making test A&B、Digit memory test)の実施協力を要請した。

(3) 活動の成果・苦労した点・反省点等

昨年 10 月に起こった軍事クーデターのより、プロジェクトの一時中断を余儀なくされ、また、現在も続く抗議デモで死傷者が出ていることから、プロジェクトメンバー、参加者たちの精神的負担とストレスは計り知れない。それでも、意欲的かつ強いリーダーシップスキルを備えたプロジェクトリーダーのもと、予定していた業務を終えることができた。

プロジェクトリーダー含むインストラクターを務めた音楽教員たちの教員として、また音楽家としての類まれなる知識、才能、経験は、非常に貴重である。スーダン政府はすでに音楽教育の実施を発表しているが、実質的にはまだ始動していないため、このプロジェクトが、今後のスーダンにおける音楽教育の普及の第一歩となると考える。

トレーニング参加者に、基礎的な音楽知識やスキル(譜読み、音楽理論等)があることを前提としてトレーニングプログラムを形成していたが、実際、参加者の大多数が、基礎的な音楽知識やスキルが著しく不足していることがわかり、内容の変更を余儀なくされた。インストラクターの音楽教員たちも同音楽大学の卒業生であり、彼らと当方が一緒に作り上げた今回のトレーニングプログラムであったが、参加者の基礎的な音楽理論の知識不足とスキルレベルに、インストラクターたちも驚きを隠せない様子であった。

こういった背景から、実技的な教科 (Music Skills 、Instrumental and Vocal Skill) では、小グループ、レベル別に分けたり、修了確認テスト内容を簡略化したり、また、追加で基礎的な音楽理論の動画を配信するなどして、基礎的な音楽知識やスキルの向上に努めた。

参加者の多くは非常に意欲的であったが、2週間にわたるトレーニングであったため、なかには、継続的に参加できない者もいた。そのほか、抗議デモの発生日もしくは前日に、オンライン動画を作成し、配信したり、最終試験日を一日追加するなどの配慮をした。

(4) 今後のプラン

今回のトレーニングにより、基礎的な音楽知識とスキルの向上が最優先であると判断し、今後、基礎科目のみを重点的に行うトレーニングを実施する予定である。また、アンケート結果を参考に、参加者のニーズに合った新たなトレーニングプログラムの構成に着手している。

今回の参加者の中から、特に優秀な現役音楽教育者の音楽教育現場の同僚や保護者に向けて音楽教育に関するフィードバック用紙を配布したり、音楽教育を受けている児童の認知領域に関するテストを実施し、これらのデータを回収、分析し、今後の音楽教育へのアドボカシー活動に役立てる予定である。

現在、当方が所属しているオランダの大学院の教授や卒業生に、協力要請を出し、オランダからの音楽教員の派遣プログラムの設立を試みる運びとなった。また、同プロジェクトの継続のための資金調達手段を模索中である。